



もてなしの心で語る わが街

えな自慢

えな自慢
えな祭 89

大井文楽

名人天狗屋久吉の作



▲積極的な公演活動で文化遺産を今に伝える

ひと口メモ

大井文楽の人形首は、阿波系のものなので、大阪文楽やその流れをくむ県内の真桑文楽や半原文楽などの人形より一回り大きいのが特徴。頭の部分の直径が大きなものでは21㌘もある。見栄えはするが、人形が重くて遣う人にとっては大変。

阿波(徳島県)の人形細工師、初代天狗屋久吉の作品を使った人形浄瑠璃。1949(昭和24)年、名古屋の近松座から人形首を譲り受け、大井町の有志らが**大井文楽同好会**を結成。しかし娯楽の多様化や会員の高齢化で一時期解散。1989(平成元年)年、大井文楽保存会が発足。積極的な公演活動を行い、先人が残したかけがえのない文化遺産を今に伝えている。人形首34個のうち、21個は初代天狗屋久吉の作品で県重要有形民俗文化財に、残る首は久吉の弟子らの作品。うち11個は市の有形民俗文化財に指定されている。



▲多くの人形首が文化財に指定

笠置ダム

大自然の中の巨大構造物

えな自慢
えな水 90

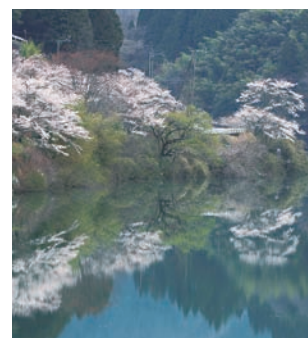


▲ダムは傾斜が急な渓谷に建設された

ひと口メモ

笠置ダムの名称は笠置山から名付けられ、建設基地も笠置町河合に設置するなど、笠置とのつながりが深いダム。土木学会の「日本の近代土木遺産～現存する重要な土木構造物2000選」に選定。発電所の水車発電機は当時の国産では最大級。

飯地町と瑞浪市大湫町境にあるダム。大井ダムの下流で木曾川本川をせき止める関西電力所有の発電専用ダムで、大自然の中にある巨大な構造物が魅力。傾斜が急で険しい渓谷と激流に挑む難工事の末、当時としては最も短い2年の工期で1936(昭和11)年に完成した。作業員も多数が地元採用で、ほとんどの家庭が工事に関係した地域ぐるみの建設工事だった。高さ40.8mの越流型直線重力式コンクリートダムで、ダムに付設する笠置発電所の認可最大出力は4万1,700キロワット。渓谷とダムで形成された湖を笠置峡と称し、霧の発生しやすいV字谷の地形は、穏やかな渓谷美を誇る。谷あいの湖面に映える秋の紅葉は有名だが、湖畔の桜も見事。



▲春には桜が湖畔を彩る

次号は2月15日号
発行日は2月15日(金)です

広報えな No.190
2013年(平成25年)
2月1日発行

発行 恵那市役所/編集 企画課広報広聴係
〒509-7292 岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1
☎(0573)26-2111/☎25-6150 / (IP電話)050-5808-9521
http://www.city.enal.jp/ ☒info@city.enal.jp

『広報えな』2月1日号、1部当たりの印刷経費は約10.2円(税込み)です。



◀市メール配信サービス(登録用QRコード)
市WEB版文字放送システム(閲覧用QRコード)
□お問い合わせ 防災情報課(内線317)



『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。
この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい植物油を使用したインキで印刷されています。

